

商学部における特色ある学部教育の補助
「学部授業への授業特別協力者(ゲストスピーカー)依頼」 報告書

テーマ	石川栄貴氏による「食とネパール」についてのご講演				
科目名	ベーシック演習II				
担当教員	福西 由実子				
実施日	2025年10月3日(金)	時限	2	時限目 実施教室	5703 教室

実施趣旨（目的）

2025年10月3日の授業では、JICA海外協力隊としてネパール・ゴルカ郡で活動された石川栄貴氏をゲストに迎え、「食とネパール：食を通して世界を見る」をテーマに講演を実施した。本講義の目的は、同地での有機野菜栽培の普及活動や農業技術指導を中心とした国際協力の経験を通じて、宗教・気候・生活文化と密接に結びついた食のあり方を学ぶことである。春学期に扱った「食と宗教」「民族」「多文化共生」などのテーマ、さらにはフィールド調査（東京ジャーミイ訪問・ウイグル料理体験等）と連動させ、秋学期の探究学習に向けて現場からの具体的な視点を得ることを目的とした。

実施結果

当日は、石川氏よりネパール農業の現状と課題（化学肥料や農薬による健康被害、若者の海外流出、低収入、水不足、有機認証制度の欠如など）が提示された上で、現地での具体的な活動内容が紹介された。活動には、有機肥料や農薬の作成方法の普及、農業研修・講演会、冊子や動画教材の作成、販路開拓や「有機マーク」の導入支援などが含まれていた。また、慣行栽培における化学肥料や農薬の適切な使用法の指導や農業機械の整備についても取り組まれていた。

さらに、食生活の変化として、伝統的な雑穀食から白米中心の食事への移行が生活習慣病を増加させている現状や、農薬の過剰使用が消費者の健康リスクを高めている点が報告された。これらは、食文化の近代化が必ずしも健康や持続可能性と両立しないことを示していた。

講演では「食の常識」は社会の羅針盤であることが強調され、ネパールの食文化に宗教・カースト・民族・生活リズム・健康問題が凝縮していることが示された。国際協力は一方的な「正解」の提供ではなく、文化を尊重しながらジレンマを共有し、持続可能な道を模索する営みであることが述べられた。最後に「私たちが当たり前と思う食生活は持続可能なのか」「豊かさとは何か」という問いが学生に投げかけられ、食を通じて社会を考える視点を深める機会となった。

